

かけはし

WELFARE INFORMATION

■編集発行／社会福祉法人養父市社会福祉協議会 〒667-0022 養父市八鹿町下網場320（地域交流センター「福祉の杜」）
平成25年12月13日発行 ■電話（079）662-0160 ■FAX（079）662-0161 ■E-Mail yabu-shakyo@fureai-net.tv
■ホームページ http://www.yabu-shakyo.jp/

大屋ひとりと暮らし高齢者のつどい

多くのボランティアの協力により開催

▶レクリエーションで、笑顔あふれる参加者と子どもたち（11月19日、南谷ふるさとセンター）

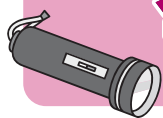


大屋地域の75歳以上のひとりと暮らし高齢者の親睦と交流を図ることを目的に、11月19日、南谷ふるさとセンターでつどいを開催し、45人が参加しました。

つどいには、ボランティア延べ4人が協力し、前日の会場準備から当日の昼食づくりなどでもてなしました。

参加者は、昼食をとりながら久々の再会に会話が弾んでいました。午後は、大屋幼児センター幼児による歌や手遊び、大屋小学校4年生によるよさこいの演奏と、鶴の恩返し of 合奏を鑑賞し、最後は介護予防サポーターようかによる寸劇とレクリエーションを楽しみ、笑顔の絶えない時間となりました。

参加者の森本源治さんは「今日はとても楽しめました。これから興味を通じて交流を広げ、来年も元気に皆さんと出会いたいです」と感想を述べ、ボランティアも「来年のつどいも楽しみなが協力して頑張りたいです」と話していました。



今こそ！地域防災力



養父市社協のびどろ2013

～みんなでまもるみんなのくらし～



地域住民や福祉関係者が一堂に会し、「ささえあう心で笑顔あふれる福祉のまちづくり～みんなでつくるみんなのしあわせ～」の実現と、地域福祉の更なる充実を目指して、養父市社協のつどい2013を養父市ボランティア・市民活動センターとの共催で11月23日に開催。約250人が参加しました。



「地域のつながりが減災につながります」と話す石井さん(=11月23日、養父市ビバホール)

11月23日、「養父市社協のつどい2013」を養父市ビバホール・養父公民館で開催しました。当日は、藤田孝夫兵庫県議会議員、足立篤史養父市教育長、西田雄一養父市議会副議長を来賓に迎え、市民や地域福祉関係者約250人が一堂に会するな

か、式典と石井布紀子^{ふきこ}さんの講演、コーラス隊パープルフレズ(京都市北区紫野)から届いたビデオレターの上映が行われました。

また、『防災エキスポ』では、防災に関する体験コーナーを9つ設置し、養父市役所・婦人防火クラブの協力もあり盛り上がりしました。

【式典】

福祉活動へ貢献した方々への表彰伝達

オープニングコーラス(社協介護福祉課女性職員コーラス隊)「こころの花ばたけ」が始まったつどい。

藤川昭男会長は、「発足して10年目を迎え、また、昨年策定しました『第2次地域福祉推進計画』の初年度となっており、新たな一歩を踏み出す重要な年度です。社協は、暮らしの場であり生活の基本となる『小地域での取り組み』が、福祉の向上を推進していく全ての活動の基であると考えております。本日の養父市社協のつどいを契機に、地域

福祉の更なる充実をめざしてまいります」とあいさつしました。

表彰では、長年のボランティア活動による地域福祉への貢献が認められ、「ひょうご県民ボランティア活動賞」、「兵庫県社会福祉協議会会長表彰」を受賞された1名と3グループに対し、改めて表彰伝達を行いました。

【講演】

いざという時の行動は日常の経験が生きてくる

NPO法人さくらネットの代表理事であり、中央共同募金会が設置している「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議」の事務局を担い、全国で災害が起こればいち早く救援活動へ向っている石井布紀子さんを講師に迎え、『防災と福祉をともに進め、暮らしの安心を高めましょう』と題した講演がありました。

阪神・淡路大震災での自身の体験から「助けを求める時、『おい』と叫ぶのは効率が悪く、『お』より『あ』の方が

届きやすいので、『わぁー』と声を出した方がいいです」と、会場の参加者に声を出してもらった。参加型の講演でした。

「いざという時にとっさにどう行動するかは、日常に何をしていたかが影響しており、実際に経験したことはできません」と話し、「命を守るための対応の時間『3・3・3の法則』について、この19年間さまざまな奇跡の地域（災害から住民が助かった地域）の話を聞くと、日常に何をしていたかが時間の法則に関係しており、防災活動で言うと、

①防災マップづくり②一時集合場所などを決めた訓練の実施③要援護者訪問活動などの福祉活動が奇跡を起こすのに役立つ」と話しました。

さらに、「①近所の繋がりが根付いている②つと型と訪問型の福祉活動が活発③自主防災組織の役員が誰なのかわかっていて④福祉防災マップづくりに取り組んでいる地域に奇跡が起こりやすいです」と日頃からの福祉活動の重要性を強調しました。

参加者からは、「日頃から地域で活動しており、講演で学んだ『心の豊かさ』を持って、今いる場所で見守りや心配りをしていきたいです」「石井さんの講演は何回も聞きたいです。福祉と防災の連携の必要性を認識しました」などの感想が寄せられました。

【ビデオレター】 防災を歌でよびかける

京都市北区の紫野に住むひとり暮らし高齢者を中心になり成されたコーラス隊パープルフレンズ。街の記憶や思いをつづった歌をCD化するなど、地域で活発に活動している同グループから「防災かぞえ歌」と養父市民に向けたメッセージの入ったビデオレターが届き、講演後に紹介しました。

「紫野の高齢者の生き方、活動の素晴らしさをうらやましく思います。できれば交流の機会があればうれしいです」「パープルフレンズの活動に感動しました。全国どこでも参考になりそう」と参加者は賞賛していました。



防災エキスポコーナー

【写真右上より】
①防災グッズ作成コーナー（防災スリッパ作り）
②避難所体験コーナー
③防災スゴロクコーナー
④非常食試食コーナー

受賞者（敬称略、順不同）

- 平成25年度
ひょうご県民ボランティア活動賞表彰（伝達）
・中村 光枝（関宮）

- 第62回兵庫県社会福祉大会
兵庫県社会福祉協議会会長表彰（伝達）
（個人）
・中村 光枝（関宮）
（団体）
・さくらんぼの会（関宮）
・介護予防サポーター
ようか（八鹿）
・宮本ボランティアグループ（大屋）



▲県社協会長表彰を受け取る受賞者

集まれ！支部社協

八鹿支部

養父市八鹿町下網場320 地域交流センター「福祉の杜」 TEL：662-0160 FAX：662-0161

あなたの子育て応援します りとるめいと



子育てに悩むお父さんやお母さんが、気軽につどえる場をつくり、子育てをサポートしていきたいと、有志メンバーが集まり結成した「りとるめいと」。

同世代の子どもを持つ親子の出会いの場『子育て広場』や、お父さんの育児参加をよびかける『みんなであそぼ』を行っているほか、イベント時の託児や親子向けのリフレッシュヨガなど多彩な活動をしています。

11月7日には、同団体が運営する「子育てほっとステーション」がオープン。月・火・木・金曜日の10時から15時まで開所しており、育児中や子育てが一段落したお母さんたちが立ち寄り、親子で一緒に遊んだり、スタッフに悩みを相談したりしています。

来所したお母さんは「子育ての悩み以外にも話を聞

いてくれるので助かります」と話していました。衣川益子代表は「安心して子育てできる地域を目指し、親子の支援をしていきたいです」と温かな笑顔を向けていました。



▶来所した親子の遊びを見守る衣川さん（11月29日、子育てほっとステーション）

養父支部

養父市広谷251-1 TEL：664-1142 FAX：664-2181

消防本部 関西電力

これで安心 冬支度 秋の防火訪問を実施

ひとり暮らし高齢者・高齢夫婦世帯を対象とした防火訪問が、11月14日から20日にかけて市内全域で実施されました。

これは、南但消防本部・関西電力・社協が連携して、高齢者が安心・安全に生活できるよう、春と秋の年2回行っているものです。

20日は、養父地域の4世帯を訪問しました。消防署員は台所まわり、ボイラー、火災警報器、消火器、暖房器具などを点検しながら「消火



▲古い消火器の処分について説明する消防署員（11月20日）



▲「数人で自宅に押しかけ、工事をしている間に窃盗されることがあります」と説明する関電職員

器は玄関先の誰でも見えやすいところに置いてください」「ストーブの前には洗濯物を干さないで」とアドバースしていました。

関西電力職員は漏電のチェックを行うとともに、同社を名乗る悪質な詐欺や窃盗にあわないよう注意を呼びかけていました。

谷口千津代さん（広谷）は「火災警報器は、就寝場所に取り付けた方がいいと助言してもらいました」と安心した表情でした。

大屋支部

養父市大屋町加保678-1 大屋保健センター内 TEL: 669-1598 FAX: 669-0093

集落は家族

篠山市「集落丸山」視察研修

11月28日、大屋支部役員8人が、篠山市丸山地区の「集落丸山」で視察研修を行いました。

同区は民家12軒中7軒が空き家で5世帯19人の限界集落でしたが、築150年の古民家を宿泊施設として再生、集落活性化の取り組みが注目を集める地域です。

「古き良き日本の集落の暮らし」を掲げ、全住民が運営に係わり、宿泊のほか農業体験や料理教室、日本文化体験等のイベントも行っています。この日もNHK大阪放送局の取材を受けていました。

宿泊棟は、昔ながらの家具やおくどさん、五右衛門風呂があり、これらを使いながら快適に滞在できるよう改装されていました。

運営するNPO法人集落丸山代表の佐古田直實氏から「集落は家族です。限界集落の危機感を住民が共有



▲佐古田氏(右)から説明を聞く役職員。宿泊棟は、懐かしさに包まれ、時間を忘れるような空間でした(=11月28日、集落丸山)

し、自分たちに何ができるのかを考え、即行動したことが今につながりました」と、集落再生の考え方や活動について話を聞きました。視察を終えた井原弘志理事は「『集落丸山』の古民家は、尋ねる人の心の拠り所、そんな風情を感じました。改めて、養父市に点在する養蚕農家の価値を再認識する研修でした」とまちづくりの視点について感想を述べていました。

関宮支部

養父市関宮193 関宮ふれあいの郷内 TEL: 667-3248 FAX: 667-3351

葛畑区

ゲームで脳を活性化

秋のふれあい活動

11月17日、葛畑コミュニティセンターで「秋のふれあい活動」が開催され、28人が参加しました。

この活動は、区の生涯学習の一環として企画部役員や福祉連絡会が中心となっていたもので、今年は八鹿町の川見陽子さんを講師に迎え、音楽と手遊びのレクリエーションをしました。

「歌う事は、大きく呼吸をするので健康にいいんですよ。唱歌の情緒ある歌詞を味わって下さい」と川見さん。みんなで「富士山」「旅愁」「里の秋」などを歌いました。

脳の活性化を図る頭の体操ゲームは、指を使い、歌に合わせてジャンケンや数字を出して遊びました。参加者は川見さんの素早い動きに一生懸命ついて行きたがらも、笑顔がこぼれていました。



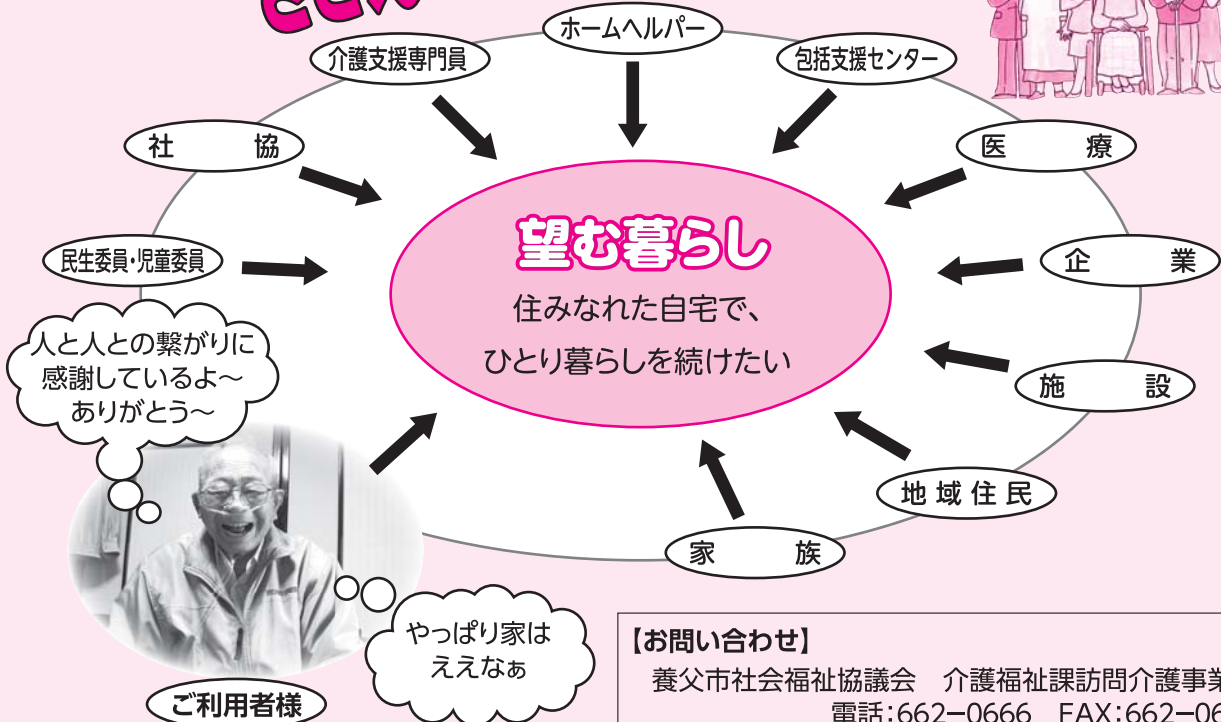
▶指の体操をする参加者(11月17日、葛畑コミュニティセンター)

最後は、パネルシアター(紙芝居)が披露され、参加者は川見さんの読み聞かせに聞き入っていました。区長の西村武さんは、「今日はわきあいあいと過ごすことができました。頭の体操のゲームは初めての経験でとても楽しかったです」と、話していました。

訪問介護事業所です

訪問介護事業所のヘルパーは、利用者様の望む暮らしの実現に向けて、利用者様ご自身、ご家族、地域の方、医療・福祉関係機関とチームを組み、利用者様に寄り添い、心をこめてサービスを行っています。

ささえ ささえられ!



【お問い合わせ】

養父市社会福祉協議会 介護福祉課訪問介護事業所
電話:662-0666 FAX:662-0667

教育支援資金

就学支度費 / 教育支援費について

教育支援資金は、学費の捻出が困難な低所得世帯の学生に対し、高等学校や大学等への入学に必要な、また在学中に必要な費用を貸し付け、その在学や将来の就労を支援する制度です。

【就学支度費】

- 対象経費…入学金、制服、敷金、礼金 等

【教育支援費】

- 対象経費…授業料、交通機関利用料 等

貸付限度額、償還期間など詳しくは下記までお問い合わせください。

総務課 電話：662-0160

●子育てサロンそよ風	●子育てサロン伊佐	●子育てサロン関宮	●子育てサロンすくすく	
・日時	12月16日(月)	※12月23日は祝日のためお休みです	・日時	1月14日(火)
・場所	1月20日(月)		・場所	三宅団地集会所
	10:00～11:30		※「お絵描き大会」を行います (参加費1家族200円)	
	ふれあいいきいき サロンそよ風			

子育てサロン・放課後プレイパークの案内



やぶ日本語教室 代表
山田 稔さん(天子)



私は、やぶ日本語教室でスタッフ18人と一緒に、外国出身者に日本語を教えています。

異なる国籍の人々が互いの違いを大切にしたい、生活をしていけたら、どんなに素晴らしいことでしょう。

私は『かけはし』役として、日本語学習の支援と運営(広報、スタッフ集め、活動資金の確保など)を行いながら「日本への親しみを感じる人が一人でも増えたらなあ」そんな思いを日々強くしています。



善意銀行だより

平成25年10月16日〜平成25年11月15日(敬称略)

預託者のご了承をいただいた方のみ寄附金額を掲載しています

▼香典返し

九鹿 小椋 光雄 30,000円

▼高柳谷

長島 俊孝 20,000円

▼九鹿

長島 求 30,000円

▼諏訪町

寺田 幸雄 100,000円

▼長野

岡山 治 50,000円

▼中央

小谷 鈺夫 30,000円

▼船谷

西村 和男 30,000円

▼広谷一区

藤原 稔 30,000円

▼門野

小畑 清美 30,000円

▼若杉

赤頭 誠 50,000円

▼中

北垣 了幹 100,000円

▼明延

田村 一子 50,000円

▼茂

近藤 達雄 30,000円

▼匿名

100,000円 1人

▼匿名

10,000円 1人

▼善意の寄附

高野山真言宗 養西結衆 34,000円

▼新津上

村下 幸男 34,000円

せきのみや親睦ゴルフ 7,824円

実行委員会 20,000円

匿名 1,800円 1人

匿名 5,000円 1人

匿名 1,000円 1人

匿名 金一封 1人

蔵垣 上垣 幸子 金一封

京都府 宮元 良光 30,000円

関宮文化祭バザー収益金 さくらんぼの会 5,000円

いずみ会関宮支部 代表 西谷すみ子 3,000円

養父市社協関宮支部 職員親睦会 5,000円

中村美根子ふるさとちぎり絵展売上金 中村美根子 13,250円

尾崎 中村美根子 13,250円

物品の寄附 朝倉 マフラー 中島 光子

広谷一区 藤原 稔

中 パシマ

紙おむつ ウェットティッシュ 毛糸 かぎ針

大屋市場 森本 源治

衣類 上垣 巖

中 間 ねぎ

とつがらし 花

蔵垣 上垣やえみ

糸原 荒田 斉

関宮 森本 秀也

紅白幕 米田 渡

小路頃 さつまいも 中尾 章

相地 白米 長村 勝

奈良尾 電動ベッド 9人

匿名 じゃがいも たまねぎ

さつまいも 大根 とつ

からし ピーマン

たくあん 玄米

髭剃り ポータブルトイレ 紙おむつ タオル

ウェットティッシュ T字帯 CDラジカセ

匿名 あじ 1人

匿名 あじ 1人

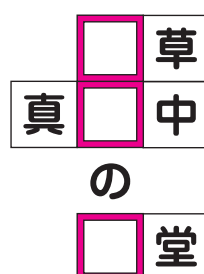
匿名 あじ 1人

匿名 あじ 1人



□にあてはまる漢字3文字を考え、ことばを完成させましょう。

■ヒント 大晦日の夜にお寺から聞こえてきます



■応募方法 はがきまたは、FAXに答えと住所、氏名、ふりがな、年齢、電話番号、「かけはし」を「覧」になったご意見・ご感想をお書き添えの上、ご応募ください。

正解者の中から抽選で5名さまに図書カードを贈ります。

※切 平成25年12月31日必着

■応募先 〒667-0022 養父市八鹿町下網場320 「福祉の杜」内 養父市社会福祉協議会 FAX 662-0161

★前回の答えは『健康長寿・安心長寿』でした

藤原 明衣さん(建屋)

柄尾多美子さん(上野)

佐藤 優子さん(奥米地)

上垣やえみさん(蔵垣)

本間 大輝さん(万久里)

以上5名の方が当選されました。

おめでとうございます。

総合相談所のご案内

いずれも相談無料

心配ごと相談・結婚相談

13:30～16:00

身の回りの困りごとや結婚に関する相談はありませんか？

- ◆ 12月 27日(金) 関宮ふれあいの郷
- ◆ 1月 3日(金) 休み
- ◆ 1月 10日(金) 社協養父支部
- ◆ 1月 17日(金) 大屋保健センター

弁護士による無料法律相談

13:30～16:30

先着6人の予約制となっていますので、事前に電話でお申し込みください。

- 期 日 平成26年1月15日(水)
- 場 所 地域交流センター「福祉の杜」
- 相談時間 1人30分程度
- 申し込み先 養父市社協本部 電話 662-0160

くらしの法律相談

8:30～17:00

消費者被害や訴訟問題、成年後見制度、福祉サービス利用援助事業などの相談を社協窓口で受け、担当弁護士に伝えて問題解決のお手伝いをします。

相談は、毎週月～金曜日までの常時、本部及び各支部で受付けています。



こあ
上垣 虹空ちゃん 1歳2ヵ月
(広谷一区・男の子)



うちげえの

お母さんの奈緒美さんに聞きました♪

◆名前はどのようにつけましたか？

虹のように空のように人を癒せるように、優しく広い心を持つようにと願いつけました。

◆今、興味をもっていることはなんですか？

ブランコとすべり台。ブランコは1人で乗るし、すべり台はいろんな物をすべらせるのが好きみたいです。

◆ご両親から一言メッセージ

とにかくヤンチャ。でも甘えん坊なところが可愛くて、家族みんなが虹空に夢中。これからもいっぱい笑ったり遊んだりしようね。

教えて弁護士さーん！

第77回「罪を犯した障害のある方の支援」のはなし

Q 先日、ある番組で刑務所に入っている方の中には障害のある方が少なくなく、再犯を繰り返していることを伝えていました。悪いことをした以上、罪を償うべきだとは思いますが、収入がないなど罪を犯してしまった原因を解消しなければ再犯を繰り返してしまうと思います。

こういった罪を犯した障害のある方に対して、刑務所では特別な対応を取っているのでしょうか。また、社会へ戻る際に支援をしているのでしょうか。

A 刑務所に収容されている方の中には障害のある方が2割から3割いるといわれています。そして、この方々の多くは、社会復帰した後も適切な福祉の支援を受けることができず、生活困窮や精神面で不安定となったことを原因として、再犯に至ってしまうのです。中には、社会で生活するより刑務所の中の方が食事の心配がいらぬ理由から、刑務所へ入るために罪を犯す方もいるほどです。

この原因の一つとして、現在の制度では、適切な福祉サービスを受けるためには自ら申請する必要がある

ところ、福祉関係者や行政と関わりを持たないまま刑務所から社会へ戻るため、自分では申請することができず、生活困窮や精神的に不安定な状況に陥ってしまうことがあげられます。

また、刑務所内では、障害のある方に対し特別な対応を取ることができないことが多く、再犯を防ぐための取り組みが十分されているとはいえません。

このような状況について、国も改善すべきであると考え、現在では、特定の障害のある方が刑務所から出るまでに、福祉関係者や行政と連絡を取り、出所した後必要な支援を受けられるように手配をする事になっています。

最近では、刑務所へ入る前の段階でも、弁護士と関係機関が連携し、刑事処分を受けなかった場合でも必要な支援を受けられるような環境を整えようという活動も始まっています。

また、刑務所でも、障害のある方に対して特別なプログラムを準備し、再犯の防止に役立てているところも出ています。

兵庫県でも弁護士会と各市町や福祉関係機関とが連携し、このような障害のある方に対し適切な対応がとれるよう各機関が活動するための協議を行っています。

もし、皆さんの周りでそのような方がおられましたら、弁護士会へご相談下さい。

S I N法律労務事務所 弁護士 福島 健太

